日本気象学会

昭和52年秋季大会

会期：昭和52年10月4日（火），5日（水），6日（木）
会場：札幌市教育文化会館（札幌市中央区1条西13丁目）

目　次

大会行事予定表……………………………………………………485
会場と宿舎案内図…………………………………………………486
研究発表内容一覧表………………………………………………487
シンポジウム内容…………………………………………………487
研究発表題目……………………………………………………488～493

大会行事予定表

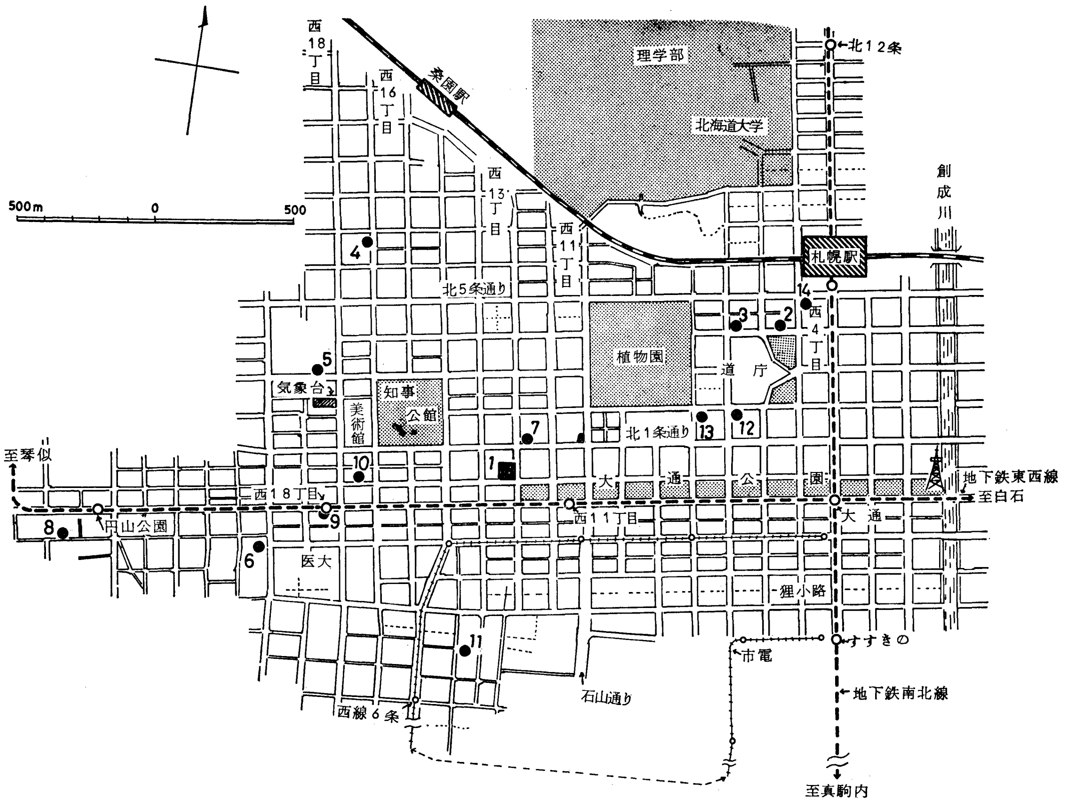
1. 会場：札幌市教育文化会館（TEL 011-271-5821）
   第1会場（4F　講堂視聴覚室），第2会場（3F　大会議室），
   第3会場（3F　中研修室），小ホール（1F）
2. 会期：10月4日（火），5日（水），6日（木）
3. 行事

大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	10月4日（火）	09：00～12：30
〃	〃	13：30～17：30
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	10月5日（水）	09：00～12：30
理事長あいさつ，日本気象学会奨励金贈呈式（小ホール）	〃	14：00～14：30
シンポジウム（小ホール）		14：45～17：30
懇親会　（厚生年金会館）		18：00～
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	10月6日（木）	09：00～12：30
〃	〃	13：30～17：00

大会委員長　伊藤　宏

注．会場付近には駐車場の設備がないので自家用車利用の方はご注意ください．

昭和52年秋季大会会場・宿舎一覧表および案内図



番号	名　　称	電話番号	所　在　地	宿　泊　料	国鉄札幌駅からの交通
1	札幌市教育文化会館	271-5821	060 中央区北1条西13丁目	(会場)	地下鉄西11丁目駅下車
2	国家共済　石狩会館	231-6711	060 中央区北4条西5丁目	食別 2,090～2,640円	徒歩
3	町村共済　自治会館	241-9111	060 中央区北4条西6丁目	食付 4,410円	徒歩
4	国家共済　清楓荘	631-2266	060 中央区北6条西17丁目	食付 3,400～3,700円	タクシー
5	北海道庁共済会館	621-0216	060 中央区北3条西18丁目	食付 3,400～3,800円	地下鉄西18丁目駅下車
6	北海道理容美容センター	621-3431	064 中央区南1条西20丁目	食別 1,500～2,100円	同上
7	北海道厚生年金会館	231-9551	060 中央区北1条西12丁目	食別 2,900～3,500円	地下鉄西11丁目駅下車
8	郵便貯金会館	642-4321	064 中央区南1条西26丁目	食別 1,500～2,600円	地下鉄円山公園駅下車
9	ビジネスホテルヒグマ	642-5161	060 中央区南大通西18丁目	気象学会と言えば朝付3,600円	地下鉄西18丁目駅下車
10	ビジネスホテルライラック	611-5191	060 中央区北大通西17丁目	食別 2,300～2,500円	同上
11	都市共済　都市会館	561-6291	064 中央区南4条西13丁目	食付 3,120円	市電西線6条下車
12	私学共済　北海道会館	261-5311	060 中央区北1条西6丁目	朝付 3,100～4,050円	徒歩
13	警察共済　エルム会館	231-1361	060 中央区北1条西7丁目	朝付 3,300～3,500円	同上
14	ホテル　ワシントン札幌	251-3211	060 中央区北4条西4丁目	食別 3,000～4,500円	同上
／	北海道大学	711-2111	060 北区北7～19条西5～8丁目		地下鉄北12条駅下車
／	札幌管区気象台	611-6121	060 中央区北2条西18丁目		地下鉄西18丁目駅下車

(注)・会場はまだ市民によく周知されていないので「旧地方裁判所跡の」と尋ねること.
・10番ホテルライラックの予約は1カ月前からだが気象学会といえば3カ月前から受付ける. 3日前までの断わりのないキャンセルは全額徴収される.
・10月5日夜の懇親会場は7番厚生年金会館.　・宿泊料1,500円とは2段ベッドか5～6人の相部屋.

昭和52年秋季大会

（　）：講演番号，──　──：座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
10月4日（火）	09.00～12.30	雲物理（101～115） ─菊地勝弘─	熱帯・積雲・大雨(201～212) ─新田　勍─	放射・エーロゾル(301～314) ─田中正之─
	13.30～17.30	大気汚染・境界層(116～125) ─井上力太─	大雨（213～225） ─小元敬男─	放射・エーロゾル(315～329) ─小野　晃─
10月5日（水）	09.00～12.30	境界層(乱流構造)（126～137） ─水野建樹─	天気予報 ・総観気象（226～236） ─倉嶋　厚─	気候（330～343） ─朝倉　正─
	14.00～14.30	理事長あいさつ，日本気象学会奨励金贈呈式（小ホール）		
	14.45～17.30	シンポジウム（小ホール）		
10月6日（木）	09.00～12.30	境界層（混合層・都市大気） （138～150） ─林　正康─	数値シミュレーション ・大循環（237～247） ─廣田　勇─	測器（344～350） ─青柳二郎─ 応用気象（351～356） ─藤井幸雄─
	13.30～17.00	境界層（風）（151～163） ─小林俊一─	力学（248～256） ─時岡達志─	大気電気・放射能(357～369) ─織笠桂太郎─

シンポジウム「大気汚染に関する諸問題」

1. **日時**　大会第2日（5日）
2. **会場**　小ホール
3. **座長**　孫野長治
4. **話題提供者**

大田　正次：大気環境アセスメントにおける諸問題.
大喜多敏一：大気汚染物質の変換および沈着に関する最近の研究.
井上　力太：汚染濃度のシミュレーション・モデルにおける問題点.

講演発表者へのお願い

1. スライドのマウントに番号をつけること
2. スライドの上下を揃え，分かるようにすること
3. スライドの標準枚数は6～8枚です.
4. 持ち時間（約15分）を超過したときは中止していただくことがあります.

研究発表題目

大会第1日（10月4日）9時00分～12時30分

第1会場　雲物理　　座長　菊地勝弘

101. 山下　晃（東大・理）：樹枝状に成長する雪結晶の枝分かれ
102. 古川義純・小林禎作（北大・低温研）："ごへい型"結晶の成長機構について
103. 谷口　恭・孫野長治（北大・理）：－35°C付近で出来る低温型星状氷晶について
104. 上田　博・菊地勝弘（北大・理）：凍結水滴の結晶主軸の方向性について（単結晶氷で凍結させた場合，III）
105. 樋口敬二（名大・水圏研）・上田　豊（山口大・教育・井上治郎（京大・防災研）：ヒマラヤにおける雪の結晶の観測
106. 孫野長治・菊地勝弘（北大・理）：カナダ北極圏における雪結晶の観測（I）極地降雪の気象学的考察
107. 梶川正弘（秋田大・教育）・菊地勝弘・孫野長治（北大・理）：カナダ北極圏における雪結晶の観測（II）―"いわゆる畸形雪結晶"の頻度について―
108. 菊地勝弘（北大・理）・梶川正弘（秋田大・教育）：カナダ北極圏における雪結晶の観測，III―いわゆるV型雪結晶について―
109. 菊地勝弘・上田　博（北大・理）：カナダ北極圏における雪結晶の観測，IV―雲粒付および雨滴付雪結晶について―
110. 遠藤辰雄（北大・理）：イヌビークにおける氷晶および雪結晶の電荷と地上電位傾度の測定
111. 桜井兼市・Ohtake, Takeshi（アラスカ大学）：Barrow で観測された "Stepped Columns"
112. Ohtake, Takeshi・Jayaweera, K.O.L.F.・桜井兼市（アラスカ大学）：雲のない空からの氷晶
113. 降雪研究グループ（名大・水圏研，気研・物理）：低気圧通過時，季節風卓越時の能登半島での降雪粒子の観測（1）
114. 武田喬男（名大・水圏研）：南沖縄海域における降水の雲物理学的研究（AMTEX 1974，1975）
115. 藤原美幸・柳瀬利子・柳沢善次（気研・台風）：雨滴成長に対する地形性下層雲の影響

第2会場　熱帯・積雲・大雨　　座長　新田　勍

201. 新田　勍（東大・理）：GATE A/B-Scale 領域の収支解析
202. 和田美鈴（気研・台風）：Arakawa-Schubert parametarization により生ずる台風スケールの擾乱の性質
203. 山岬正紀（気研・台風）：地表摩擦の影響をうけない CISK モードについて
204. 飯田睦治郎（気研・予報）：南西モンスーンと熱帯偏東風ジェットについて（序報）
205. 丸山健人・常岡好枝（気研・予報）：インド洋上空の赤道波（続3）
206. 古川武彦・当舎万寿夫・奥田　穣（気研・台風）：台風に伴う降雨帯の解析（中間報告）
207. 伊藤公子・浅井冨雄（東大・海洋研）：帯状降雨域の解析―関東地方1976年9月9日の場合―
208. 今　久（北大・理）：Shear Flow 中における背の低い積雲の挙動（数値計算）
209. 椎野純一（気研・台風）：積雲対流における微物理過程と降水能率（2）
210. 大河内康正（九大・理）：山岳による循環風について
211. 榊原　均・今井博子（気研・予報）：大雨の条件と積雲の mass flux
212. 礒野謙治（名大・水圏研）：最大日雨量と最大1時間雨量の関係―可能最大雨量の推定に関連して―

第3会場　放射・エーロゾル　　座長　田中正之

301. 吉田作松・篠木誓一（気象協会・研）：日本における月平均法線面直達日射量分布図の作成（序報）
302. 川口貞男（極地研）・後藤良三（気研・高物）：南極における下層大気の日射吸収
303. 川口貞男（極地研）：大気の日射の吸収・散乱とアルベドの関係について
304. 後藤良三・村井潔三（気研・高物）：昭和基地におけるエーロゾルの消散係数の測定
305. 佐藤隆夫（長崎大）：日照権侵害率の算定法（II）
306. 佐藤隆夫（長崎大）：第n次散乱における位相関数（I）

307. 荒生公雄(長崎大・教育)：混濁大気における太陽周辺光（I）
308. 高野精秀・田中正之(東北大・理)：無限長円柱による光の散乱（II）
309. 田中正之・内山明博(東北大・理)：中間圏における赤外放射の伝達(I) 基礎方程式系
210. 中澤高清・田中正之(東北大・理)：O_2 red band の吸収特性の研究
311. 井沢龍夫（気研・台風)・井上豊志郎(衛星センター)：VTPR データによる水蒸気の鉛直分布と海面水温の分布
312. 岩坂泰信(名大・水圏研)：2波長方式レーザレーダによる成層圏エーロゾル探査（III）
313. 岩坂泰信・長屋勝博・武田喬男(名大・水圏研)：ライダーによる対流圏上部の微粒子の観測（I）
314. 近藤　豊・森田恭弘・石川晴治・高木増美・岩田晃（名大・空電研)：対流圏での NO, NO_2, O_3 およびエーロゾルの飛行機観測

大会第1日（10月4日）13時30分～17時30分

第1会場　大気汚染・境界層　　座長　井上力太

116. 西宮　昌・小林博和(電力中研)：気象因子による大気汚染の確率予測
117. 平松　親・孫野長治(北大・環境)：札幌の大気汚染量の日変化について
118. 鶴田治雄(横浜市・公害研)：沿岸地域における大気汚染物質の輸送過程（I）
119. 川崎秀行(気象協会・東北)：パスキル安定度分類について
120. 平山昭生・成田　脩(動燃・東海事業所)：パスキルの大気安定度と風
121. 安達隆史・大田正次(気象協会・研)：パスキル安定度階級がGの時の拡散幅（微風時大気拡散の研究I）
122. 栗田秀実(長野県・衛生公害研)：拡散幅と気象要素の関係
123. 内藤玄一(防災センター)：風速変動の3次元空間のコヒーレンス（II）
124. 水野建樹(公資研)：接地境界層の乱流構造とコヒーレンス（その2）
125. 井上栄一(元農技研)：乱流中の色素濃度の変動スペクトル

第2会場　大雨　　座長　小元敬男

213. 後町幸雄・中島暢太郎・高杉年且・伊藤芳樹（京大・防災研)：鈴鹿山脈周辺の大雨の特性
214. 中山　嵩(気象庁・電計)：統計手法による場の分類と大雨ポテンシャル予想
215. 佐藤英夫・吉田作松(気象協会・研)：レーダと雨量計による短時間雨量予測―スケッチ図修正の試み，および互いに異なるレーダ情報による予測精度の比較―
216. 矢野兼三・山口栄次(福岡管区)：九州北部の集中豪雨解析
217. 山口栄次・矢野兼三(福岡管区)・渡部俊夫（広島地台)：中国地方のレーダエコー（I）
218. 若原勝二(札幌管区)：寒冷前線と外側対流域によるメソじょう乱の解析
219. 八木鶴平・小元敬男・清野　豁・米谷恒春（防災センター)：1976年7月19日の降ひょう系のレーダ解析
220. 秋山孝子(気研・予報)：中間規模じょう乱のエコー分布と降雨
221. 植村八郎(気象庁・予報)：低気圧系の構造と降雨域について
222. 二宮洸三(気研・予報)：梅雨期の低気圧近傍の降雨（その1，総観場)
223. 二宮洸三(気研・予報)：梅雨期の低気圧近傍の降雨（その2，降雨分布)
224. 元木敏博(札幌管区・予報)：帯状雲内にメソじょう乱を伴う局地的な大雪の解析
225. 伊藤洋三：放射状雲と気象衛星資料の対応調査

第3会場　放射・エーロゾル　　座長　小野　晃

315. 森田恭弘・近藤　豊・石川晴治(名大・空電研)・下道　国（名大・工)：エーロゾルの水平・垂直分布（航空機観測結果)
316. 児島　紘(東理大)：ポラックカウンターの最小検出限界の実験的推定
317. 小野　晃・井沢保男（名大・水圏研)：個々の nitrate 粒子の同定法について
318. 小野　晃(名大・水圏研)：稲藁籾殻焼きの煙で汚

染された大気中のエーロゾル粒子の物質構成について

319. 石坂　隆(名大・水圏研)：都市とその近辺大気中のエーロゾルの物質構成について

320. 岡田菊夫・礒野謙治(名大・水圏研)：炭素粒子を核とする硫酸の形成について

321. 遠藤辰雄・村上正隆(北大・理)：太平洋沿岸海上のエイトケン核と巨大海塩粒子の測定(Ⅰ)(海上へ流出したエーロゾルの消滅過程の研究，その3)

322. 村上正隆・遠藤辰雄(北大・理)：太平洋沿岸海上のエイトケン核と巨大海塩粒子の測定(Ⅱ)(海上へ流出したエーロゾルの消滅過程の研究，その3)

323. 後藤良三・三崎方郎(気研・高物)：昭和基地における大粒子エーロゾル濃度の測定

324. 播磨屋敏生（北大・理）・小林禎作（北大・低温研）・桜井兼市（北教大）：冬期カナダ内陸部におけるエーロゾルの観測

325. 織笠桂太郎(室蘭工大)：大気中のエーロゾル濃度の大気電気的観測

326. 角田智良（東理大）・中谷　茂（電総研）・望月定(東理大)：大気電気伝導度による粒子汚染の評価

327. 中谷　茂（電総研）・角田智良（東理大・理)：微小粒径域におけるエーロゾル粒子の大気中での動特性

328. 北川信一郎(埼玉大・工)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎方郎（気研)・中谷　茂（電総研)・関川公成・角田智良・増田純夫・望月　定（東理大・理)・首藤克彦（東理大・理工)：サブミクロン・エーロゾルのメソスケール分布と変動の研究（第3報)

329. 山田裕司・池辺幸正(名大・工)：光化学反応による硫酸エーロゾル発生実験とその動力学モデル計算

大会第2日（10月5日）9時00分～12時30分

第1会場　境界層（乱流構造）　座長　水野建樹

126. 蒲生　稔・横山長之(公資研)：混合層の発達と乱流統計量の日変化について（その2)

127. 近藤純正(東北大・理)・金近　治（気象協会・関西)・安田延寿（気研)：強安定気層における運動量と顕熱輸送一完結報

128. 花房龍男・藤田敏夫・魚津　博(気研)：宮古島における乱流輸送量の観測（AMTEX 1975）Ⅲ

129. 横山長之・蒲生　稔・山本　晋（公資研)：AMTEX で測定した大気境界層中の乱流変動量について

130. 安田延壽(気研・応用)：顕熱と水蒸気輸送に対するロスビー相似則のパラメータ C,D について

131. 気象研大気境界層グループ　代表者　藤田敏夫(気研・予報)：運動量輸送量の高度変化について(Ⅰ)

132. 気象研大気境界層グループ　代表者　藤田敏夫(気研・予報)：顕熱乱流輸送量の高度変化について(Ⅰ)

133. 吉住禎夫(気研・予報)：傾圧混合層内の風速分布および運動量輸送

134. 安達隆史(気象協会・研)：傾圧大気のプラネタリー境界層の研究

135. 安田延壽(気研・応用)：大気境界層の乱流のシミュレーション（第1報)

136. 岸保勘三郎（東大・理)：大気境界層における closure model について

173. 後藤常男(緯度観測所)：位置天文観測と境界層の構造（Ⅰ)

第2会場　天気予報・総観気象　座長　倉嶋　厚

226. 浅利英吉(東海大・札幌校舎)：天気に関連して生ずる気象雑音電波と気象予測への利用について

227. 青木　孝(気象庁・予報)：PC 法による台風の進路予報

228. 立平良三・牧野義久(気象庁)：電算機による雨量の短時間予測

229. 山口勝輔・吉田作松(気象協会・研)：MOS 手法による流域雨量の予測(その2：予測式 $g(f(p))$ の検討)

230. 杉本　豊・足立　崇(気象庁・予報)：判別解析による視程の客観予報の試み

231. 廣瀬元孝(気研・予報)：月平均気温の1年先予報

232. 北岡龍海(宇宙開発事業団)：気圧高度計を狂わせた東京湾上の局地異常低気圧

233. 青木　孝（気象庁・予報)・斎藤直輔（気研・予

報)：北高型高気圧の南縁に発生した擾乱の構造

234. 大川　隆(札幌管区)：オホーツク海高気圧の下層での変形と北海道北部・東部の夏季天候

235. 中村　力・孫野長治(北大・理)：昭和52年北海道の冬の異常低温について

236. 大井正一(東理大)：成層圏天気図の解析 (29)-30 mb の気温と暖冬

第3会場　気候　　　座長　朝　倉　　正

330. 土屋　厳(公害研・環境情報)：鳥海山貝形小氷河の年々変動とその気候学的解析

331. 原田　朗(気研・応用)：関東地方における気圧と気温の最近の推移

332. 中島　尚(札幌管区)：北海道の夏期の気温の経年変化と最近の傾向

333. 木村耕三：日本の夏における最近の気候変動

334. 山元龍三郎(京大・理)・星合　誠(愛知学院大・教養)：全球平均気温の最近の推移　第2報

335. 須田滝雄(岐阜大・農)：冷夏の主因は黒点でなく微粒子放射の衰退

336. 米谷恒春(防災センター)：東京における降水量に関する最近25年間の傾向

337. 須田滝雄(岐阜大・農)・朝倉　正(気象庁・長期)・松下　真(気象庁・総務)：近年の気候変動サイクルにおける日本の豪雨回数の変化

338. 荒井　康(気象庁・長期)：地上の準定常波の統計解析

339. 荒井　康(気象庁・長期)：対流圏下層の顕熱水平輸送

340. 山元龍三郎(京大・理)：オメガ気候学(序論)

341. 石島　英(琉大)：北太平洋西部海域の表面水温および気温の季節変化

342. 井上雅之・山田知充・小林俊一(北大・低温研)：みずほ高原の気象に及ぼす低気圧擾乱の影響およびみずほ高原への水蒸気輸送

343. 山田知充(北大・低温研)・渡辺興亜(防災センター・雪害研)：東南極みずほ高原の白瀬流域と宗谷流域における涵養量

大会第3日(10月6日)　9時00分～12時30分

第1会場　境界層(混合層・都市大気)　　　座長　林　　正　康

138. 文字信貴(大阪府大・工)・光田　寧(京大・防災研)：接地気層内の対流プルームの性質

139. 北林興二・横山長之(公資研)：対流境界層の風洞実験

140. 藤田慎一・西宮　昌・千秋鋭夫(電力中研)：大気放射測定による気温鉛直分布の連続観測手法(2)

141. 内藤恵吉・田端　功・高橋克巳・横田良夫・林　龍美(気研・衛星)：ライダーにより見出される夜間逆転層の複合的構造

142. 林　正康・横山長之(公資研)・小堀泰宏(海上電機)：音波レーダによる大気境界層の観測　2. ドップラーシフトの解析

143. 山本　晋・横山長之・蒲生　稔(公資研)：タワーによる大気境界層の観測―特に安定接地気層の場合―

144. 横山長之・蒲生　稔・山本　晋(公資研)：内部境界層の構造モデル

145. 林　正康(公資研)：都市域での接地逆転層―1977年1月の事例研究―

146. 板宮憲一(㈱日科技研)・広瀬元孝(気研・予報)：南関東における定常収束域の解析

147. 沢井哲滋(東大・理)：都市気塊と局地循環の生成(その3：総まとめ)

148. 河村　武(筑波大・地球科学)：暖候期における関東平野の海陸風

149. 菊池幸雄(気研)・荒川正一・白崎航一(気大)・長野美文(気象庁)：南関東海陸風の数値シミュレーション(第4報)

150. 市川陽一(電力中研)・池田有光・平岡正勝(京大)：水槽実験による大気中の流れ場の推定

第2会場　数値シミュレーション・大循環　　　座長　廣　田　　勇

237. 八木正允・岡村　存(気研)：ネスティングの方法についてのテスト(II)

238. 巽　保夫・山岸米二郎(気象庁・電計)：Regional Model の側面境界条件のテスト

239. 重久陽亮(気象庁・電計)：球面座標系数値予報モデルのテスト

240. 岩嶋樹也(京大・理)・森山　茂(日大・生産工)・

山元龍三郎(京大・理)：火星の大気大循環スペクトルモデル（Ⅲ）

241. 中村　一(広島地台)：大気大循環に及ぼすチベット型地形の力学効果

242. 松野太郎(東大・理)・中村　一(広島地台)：Zonally Symmetric モデルと Nonlinear Viscosity

243. 中村　一(広島地台)：チベット高原による偏西風ジェットの分流の数値シミュレーション

244. 時岡達志・森　信成(気研・予報)・滝川雄壮（気象庁・電計)：渦度方程式を用いて ω を求める方法の検討

245. 松田佳久(東大・理)：金星下層大気の循環（序）

246. 金光正郎(気大)：熱帯領域の実験予報で得られた超長波の解析

247. 廣田　勇（京大・理)：中間圏赤道波

第3会場　測器　　　　座長　青柳二郎

344. 野田　彰(仙台管区)：ドップラー周波数シフトの一般公式

345. 須田友重(気研)：静止衛星軌道での太陽宇宙線

346. 村山信彦（衛星センター)・高山陽三・鯉沼正一(気研・衛星)：小平信彦(衛星センター)：三軸安定気象衛星塔載放射計

347. 青柳二郎（気研・衛星)：MTI 気象レーダの最適消去器の選定について

348. 気象研大気境界層グループ(気研)：気象観測塔に設置した観測装置について

349. 高橋延男(気研・衛星)・佐藤政治・吉田次郎（元気研・試作)：低風速水平風洞の試作（その2）

350. 吉留英二・青柳二郎(気研・衛星)：オメガ高層風観測装置の改良（Ⅲ）

応用気象　　　　座長　藤井幸雄

351. 小元敬男・清野　豁(国立防災センター)：農作物のひょう害の形態

352. 大滝英治（岡大・養)・瀬尾琢郎（岡大・農研)：作物群落上での炭酸ガスフラックスの直接測定

353. 竹内政夫(北海道開発局・土木試)：道路における吹雪災害

354. 木藤煕子・根本　修（気研)・神山恵三（東農工大)：地下道の環境調査について

355. 藤井寺雄(気研)：食中毒発症の気象学的考察（東京都における食中毒発症と気象因子)

356. 高橋浩一郎（気象大)：気候環境と人口密度

大会第3日（10月6日）13時30分～17時00分

第1会場　境界層（風)　　　　座長　小林俊一

151. 岩谷祥美・塩谷正雄・山田信夫(日大・生産工)：小山の背後で観測された間けつ的な乱れの解析

152. 塩谷正雄(日大・生産工)・西野新造(本四公団)・岩谷祥美(日大・生産工)：地形と風一海上風の海岸地形による影響

153. 花房龍男・藤谷徳之助・相馬清二(気研・物理)：滑走路周辺の低層の気流の立体構造の観測（1）

154. 千秋鋭夫(電力中研)：下層大気における代表風速の推定

155. 川上美代子・安達隆史・大田正次（気象協会・研)：10分間平均風向の代表性について

156. 花房龍男（気研)・筑紫文夫（気象協会)：微風のスケール（微風構造の研究Ⅵ)

157. 安達隆史（気象協会・研)・千葉　修（高知大・理)：微風時の風速変動量の特性

158. 千葉　修(高知大・理)：風速鉛直成分の歪度の依存について

159. 小林俊一(北大・低温研)：南極みずほ高原の大気境界層

160. 菊地時夫（北大・低温研)：地ふぶきの風洞実験（Ⅰ）

161. 白澤邦男・田畑忠司(北大・低温研)：氷板のうける風の応力測定について

162. 大畑哲夫・池上宏一・樋口敬二(名大・水圏研)：ヒマラヤの山谷風

163. 宮川和夫（網走地台)・永沢義嗣（札幌管区)：北海道のオホーツク海沿岸における春の気温急変現象一オホーツク海沿岸の気流調査一

第2会場　力学　　　　座長　時岡達志

248. 谷貝　勇(仙台管区)：任意座標系における基礎方程式の表示

249. 佐藤康雄(東大・理)：モンスーン中層低気圧の力学モデル

250. 里村雄彦・松野太郎(東大・理)：Eady 問題における O (R_0^2) の非地衡風効果

251. 守田　治(九大・理)：エクマン境界層の不安定波
252. 宮原三郎(九大・理)：大気潮汐波による平均流加速（2）
253. 田平　誠(愛知教育大)：桜島火山の噴火にともなうインフラソニック波の観測
254. 宇加治一雄・玉木克美(福岡大・理)：内部加熱による回転流体の運動（4）
255. 瓜生道也・守田　治・細川善弘・河喜多益子（九大・理)：回転流体中の傾圧不安定波—障害物の影響について
256. 新野　宏(東大・海洋研)：乱流プルームに及ぼす回転の効果（第2報）

第3会場　大気電気・放射能　座長　織　笠　桂太郎

357. 岩渕武士・孫野長治(北大・理)：表面電位の温度効果について
358. 岩渕武士・孫野長治(北大・理)：水面凍結の際のJet Drop の荷電について
359. 坂本洋和・遠藤辰雄・谷口　恭・柳沢嘉親・孫野長治(北大・理)：雪雲と冬期雷雲の電気的構造について（その2）—冬雲の電荷分布の観測（宇ノ気)
360. 坂本洋和(北大・理)：降水電荷の頻度分布（その1）
361. 高杉年且・後町幸雄(京大・防災研)：尾鷲における降水観測
362. 孫野長治・遠藤辰雄・坂本洋和(北大・理)：雪雲の電荷の分布と鏡像効果について
363. 前野紀一・西村　寛(北大・低温研)：氷の表面電気伝導と擬似液体層
364. 織笠桂太郎(室蘭工大)：固体粒子，雪片などの衝突による帯電とイオンの発生
365. 宮沢順成・孫野長治・菊地勝弘(北大・理)：先端放電による雷雲下の電気的性質の変化について(序報)
366. 関川公成・増田純夫・関川俊男(東理大・理)・岩田　晃(名大・空電研)：大気電気伝導度に影響する要素について
367. 望月　定（東理大・理)：ラドン（^{222}Rn）の地中濃度変動と発散率，気中濃度変動について（I）
368. 今井俊男(岩見沢測候所)：日本海中部の季節風による自然放射能（予備観測)
369. 三宅泰雄（地球化学研究協会)・葛城幸雄(気研・地球化学)：最近の中国核実験による ^{90}Sr 降下

ご意見をお寄せ下さい

講演企画委員会

春・秋の大会に研究発表を申込むとき，希望部門を記入していただいております．これは，プログラム編成に当たって発表者の希望を知るのに，大変役に立っています．しかし，気象学の発展にともない，従来の部門では必ずしも十分でなく，一部会員からの希望もありますのでつぎのような改正案を作りました．

大きな改正点はつぎの通りです．

1. 大気現象を自由大気現象と境界層の大気現象に分けました．
2. 自由大気現象をスケールの大きさで分類しました．
3. 気象教育，気象学史，航空気象，海上気象を応用気象に追加し，大気汚染を「境界層の大気現象」に移しました．
4. 小項目に予測を追加しました．

ご意見を講演企画委員会宛10月30日までにお寄せ下さい．

〒100　東京都千代田区大手町 1-3-4
気象庁内長期予報課
朝倉　正

希望部門の分類の改正案

1. 自由大気現象

1-1 惑星大気　1-2 気候　1-3 大気大循環
1-4 大気振動　1-5 総観規模現象　1-6 中小規模現象
1-7 熱帯気象　1-8 積雲対流　1-9 地球流体力学

2. 境界属の大気現象

2-1 接地境界層（大気乱流を含む）
2-2 エクマン境界層
2-3 局地循環（海陸風・ヒートアイランド等）
2-4 大気汚染

3. 大気物理・化学

3-1 大気電気　3-2 放射　3-3 大気化学
3-4 雲物理　3-5 エーロゾル

4. 気象測器と観測手法

4-1 センサー　4-2 遠隔測定　4-3 データ処理

5. 応用気象

5-1 生気象　5-2 人工気象　5-3 水文気象
5-4 農業気象　5-5 航空気象　5-6 海上気象
5-7 気象災害　5-8 気象教育　5-9 気象学史

6. その他

小項目　a．理論　b．解析　c．数値実験
d．室内実験　e．観測　f．予測